

## 内外交差点

# 適応しなければ生き残れない X Taxiとは何者か？⑪

山田 健太郎氏 (X Taxi 総務・広報委員長) 11人目/12人



1300年以上の歴史がある「長良川の鶺鴒い」、世界遺産の「白川郷」、ミシュランの実用旅行ガイドで三ツ星を獲得している「飛騨高山」、日本三名泉である「下呂温泉」、天下分け目の「関ヶ原」、インスタ映えで一躍有名になった「モネの池」、「妻籠宿」、「日本アルプス」などなど、数多くの観光地があるのですが、いまいちパツとしない地味な県、岐阜県でタクシー事業を営んでおります日本タクシー代表取締役の山田健太郎です。

私がX T a x iを知ったのが業界紙でした。当初はタクシー協会の青年部的な感じの団体なのか？と少々訝しく思っており、取り合えず参加はしておこうと思うにとどまっていた。

転機となったのは加入から2年後、大阪での例会に参加した時でした。何となくセミナーに参加。セミナーの内容もさることながら、懇親会で大きなショックを受けました。各社長達の、精度の高い「情報収集力」先進的な「発想力」その考えを実行する「実行力」そして最後までやりきる「貫徹力」全てに驚かされました。

私が日本タクシーの代表となったのが2020年2月1日。まさにコロナ直前。代表に就任するや否や、釣瓶落としのような売上減少に毎日苦しんでいました。そんな最中でのこの懇親会。日本全国で同じようにコロナ禍で苦しみなながらも日々変化を求め、歩みを止めず、前を向いて一步一步進んでいる社長達に本当に大きな感動を覚えました。そのような素晴らしい社長達と出会いともに勉強できるX T a x iとの出会いは、大変ありがたく有意義なものでした。

話は変わり、コロナ禍が一応の終わりを迎え、さあこれから！という時にタクシー業界は非常に大きな問題に直面しています。ライドシェアです。

ライドシェア問題は都市部と地方、観光地と過疎地域、市町村ごとの人口動態・年齢構成、高齢者と若者とのデジタル格差など様々な要素が加わり、各タクシー会社の経営者様たちのそれぞれの考えがあると思います。何が正しく何が間違っているか、などの二元論ではないと思っています。この先ライドシェアにより、タクシー業界はどうなるのか？ライドシェアを上手く活用し新たな世界へ進むのか？ライドシェアがゲームチェンジャーとなりジリ貧ですぼんでいくのか？わかりません。ただ一つ確実なのは大きな変化が目の前に迫っているということ。変化が目の前に迫ってきている以上、その変化にうまく対応しなければいけない。変化は嫌だと言っても環境は否応なしに変化します。時代の変化に合わせ対応しないと生き残れないと考えています。

タクシーの根本は「迅速に」「安全に」目的地に送り届けることだと思っています。

このコロナ禍で弊社も従業員が70%程度まで落ち込みました。しかし積極的に人材募集、特に若者、女性ドライバーを採用していき現在令和6年1月ではコロナ前の2019年1月に対して乗務員数は95%程度まで回復。平均年齢も60歳から52歳へと若返り、女性乗務員率は約20%とコロナ前から大きく向上しました。昔のタクシー乗務員に対する「高齢のタバコ臭い男性運転手」のイメージを変えるべく取り組んできました。少しずつではありますが、その成果が出てきたのではないかと考えています。

これからライドシェアだけでなく様々が事柄で業界を取り巻く環境は変わっていくと思います。その変化にしっかりと対応でき、明るい業界であればと願っています。最後に皆様のご健康とご多幸を願い終わらせていただきます。有り難うございました。



一般社団法人 X Taxi

問い合わせ先：info@xtaxi.jp

ホームページ：https://www.xtaxi.jp/

